



高柳さんのミニトマト



今年のミニトマトは高柳さんも「ブドウみただな」と言うほど例年まれにみる実なりのです。



ハウスの中はまるで森林のよう。1本1本の木も元気で、とても健康的で美しい姿です。



完熟した赤い粒だけを丁寧に収穫してパック詰めしています。その姿はまるでルビーのようです。

★ブドウのように鈴なり♪

代表的な夏野菜の1つ、高柳さんのミニトマトの出荷が始まっています。今年は例年まれにみる育ちっぷりで、「鈴なり」とは正にこのこと。まるでブドウのように実がぎっしりとなっています。

「ブドウみただよな。今年は水を多めにあげたからかもしれないが、実も大きいのが多いな」

トマトの原産地はアンデスといわれており、冷涼で乾燥している地域。高柳場長の基本的な育て方は「原産地の環境に近づける」というもの。そのため例年は水を極力切って育ててきました。しかし今年はいつもとより水を多めにあげてみたのです。そのためか、すこぶる生育が良いのです。

例年、ミニトマトの出荷が始まる梅雨の時期は天気が悪いと受粉をしなかったり、受粉をしても実がなかなか大きくなり、また実が育っても赤く色づきにくいので、とにかく出荷出来る量が天候によって大きく上下するのです。しかし今年に関しては今のところ「こりゃ、出荷仕切れないぞ」と心配するほどの実なりのです。

そんなミニトマトは、わき芽を掻いたり下葉をとったり紐で誘引したりといくらでも作業があります。他にも田んぼの見回り、ナスの手入れ、ジャガイモの収穫と「猫の手も借りたい」時期なのです。しかし、皆さんが一番美味しいものを食べてもらうために、注文に合わせて完熟した赤い実だけを1つ1つとり、丁寧にパック詰めして出荷していますので、是非たくさん食べて下さいね。

おかげさま農場は、「食は命」をテーマにしています。化学合成農薬や化学肥料を使わないことを基本としています。

【産地情報】

◎ニンニク、せんべい(プレーン、海苔)の出荷が始まりました。